

カヤツリグサ科植物 2 種（ウキヤガラとイセウキヤガラ） の鹿児島県本土からの記録

丸野勝敏

〒 891-0113 鹿児島市東谷山 1-51-8

はじめに

日本産カヤツリグサ科ウキヤガラ属植物は、ウキヤガラ *Bolboschoenus fluviatilis* (Torr.) T. Koyama subsp. *Yagara* (Ohwi) T. Koyama, コウキヤガラ *B. maritimus* (L.) Palla, イセウキヤガラ *B. planiculmis* (F. Schm.) T. Koyama の 3 種が知られている(小山, 1980)。このうち、ウキヤガラとコウキヤガラの 2 種が鹿児島県から報告されている(初島, 1986)。

ウキヤガラ属 3 種の特徴は以下の通り(小山, 1987)。ウキヤガラの悍の高さは 80–150 cm。葉は悍上生、巾 5–10 mm。花序は頂生の散房状、側枝は 3–8 本、長いものは長さ 7 cm、1–4 個の小穂を着ける。果実は三稜形、柱頭は 3 岐する。刺針状花被片は 6 本、果実と同長か少し短い。平地の池畔の残水中や湿地の溝などに生える。コウキヤガラの悍の高さは 20–100 cm、花序は頭状、稀に側枝を出す。果実はレンズ状である。イセウキヤガラの悍の高さは 40–80 cm。葉の横断面は鋭角三角形、巾 2–5 mm。苞は 2 個あり、1 個は立ち悍に続き、花序は側生。小穂は 1 個稀に 2 個着ける。果実はレンズ形、長さ 3.5 mm。刺針状花被片は 6 本。柱頭は 2 岐する。満潮時に完全に水没するシオクグ帯に深に生育する。

本研究で鹿児島県産ウキヤガラ属植物の標本を検討した結果、それらはウキヤガラとイセウキ

ヤガラと同定された。これまでウキヤガラの詳細な生育地は不明であり、またイセウキヤガラは鹿児島県初記録であるので、ここに両種を報告する。

結果

ウキヤガラ (図 1–3)

***Bolboschoenus fluviatilis* (Torr.) T. Koyama subsp. *Yagara* (Ohwi) T. Koyama**

証拠標本：始良郡, Aug., 1926, 岩川 11090, (KAG); 日置市吹上町薩摩湖, June 11, 2002, 丸野勝敏 26131, (丸野)。

日置市吹上町薩摩湖の北東部の湿地で見出した。悍は 110–120 cm、葉は広いところで 8 mm、4 cm ほどの散柄を 6 本ほど出し花序は散房状であった。柱頭は 3 個あり、刺針状花被片は 6 個、刺針状花被片は果実より短かった。

薩摩湖は吹上浜から 1.5 km ほどの地点にある。湖にはヒシ、コオニビシ、ヒメシロアサザ、ウキシバ、ミカワタヌキモ、オオトリゲモ等が見られた。湿地にはガマ類、カンガレイ、イヌホタルイ、ヨシ、ハス、アシカキ、メアゼテンツキ等が生育していた。

ウキヤガラ属植物は耐塩生植物である(小山, 1980)が、薩摩湖は水生植物の様子から塩分濃度は低いものと推測された。

なお、ウキヤガラの果実は、形や果皮の構造の異なる 2 型が報告されており(早坂・大橋, 2002)、今後果実の詳細な観察が必要である。

Maruno, K. 2011. Records of two species of *Bolboschoenus* (*B. fluviatilis* and *B. planiculmis*) from the mainland of Kagoshima Prefecture, Japan. *Nature of Kagoshima* 37: 149–151.

✉ 1-51-8 Higashi-taniyama, Kagoshima 891-0113, Japan (e-mail: bhh000368641@sat.bbq.jp).



図1. ウキヤガラの花序. A: 側枝, B: 苞.



図2. ウキヤガラの未熟な果実. A: 刺針状花被片, B: 雄蕊, バー: 2 mm.

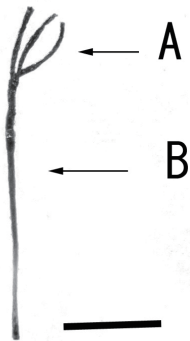


図3. ウキヤガラの花柱・柱頭. A: 柱頭, B: 花柱, バー: 2 mm.



図4. イセウキヤガラ.



図5. イセウキヤガラの花序. A: 苞, B: 小穂, C: 悍, バー: 1 cm.

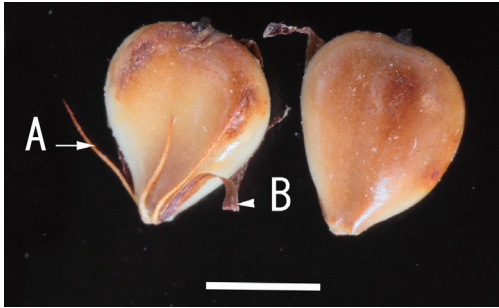


図6. イセウキヤガラの果実。A：刺針状花被片，B：雄蕊，バー：2 mm.

イセウキヤガラ (図4-6)

Bolboschoenus planiculmis (F. Schm.) T. Koyama

証拠標本：霧島市隼人町住吉天降川河口，Sept. 11, 2002，丸野勝敏 26132，(丸野)。

霧島市天降川河口で見出した。秆の高さは25–47 cm，葉は広いところで3 mm，苞は2個稀に1個，秆に続く苞は直立し，他の1個は小穂の下方から出ている。小穂は1個，稀に2個側生していた。果実はレンズ形，刺針状花被片は果実より短かった。柱頭ははっきり確認できなかった。

生育地点は河口より500 mほどの河岸にあり，

ヨシ，オギ，セイトカヨシ等に交じって生育していた。大潮のときは海水を被ると考えられる地域であり，ウキヤガラ属植物の中では最も耐塩生が強いと考えられる。

■ まとめ

ウキヤガラ属植物3種は花序，刺針状花被片，果実，生育環境等を観察すると区別できる。

ウキヤガラ属植物は耐塩生植物であるが，耐性は3種それぞれ異なっている。

■ 謝辞

本報告を纏めるにあたり，鹿児島大学総合研究博物館収蔵の標本を調査させて頂いた。お礼申し上げます。

■ 引用文献

- 初島住彦. 1986. 鹿児島県植物目録. 鹿児島植物同好会, 鹿児島.
- 早坂英介・大橋広好. 2002. Achene gross morphology and pericarp anatomy of Japanese *Bolboschoenus* (Cyperaceae). 植物研究雑誌, 77 (1): 9–23.
- 小山鐵夫. 1980. 日本ウキヤガラ属. 植物分類, 地理, 31 (4–6): 139–148.
- 小山鐵夫. 1987. カヤツリグサ科, Pp. 217–218. 北村四郎・村田源・小山鐵夫(編), 原色日本植物図鑑草本編・単子葉類. 保育社, 大阪.